

フェニキア・カルタゴ研究会 第11回公開報告会

The Society for Phoenician and Punic Studies in Japan

今回の報告会は4部構成となります。第1部では卒業論文や大学院生の研究成果の一端をお話しいただきます。第2部では2025年度の科研の成果報告会として、これまでの4度にわたるチュニジアでの現地調査を総括していただきます。第3部は西アジアの古代末期についての講演会を企画いたしました。その後、登壇者とフロアやオンラインの皆さまがともに参画できる対話の場としてラウンド・テーブルを設け、質疑応答および全体討論の時間を予定しています。なお、全体会終了後には、対面参加者のみを対象とした研究報告も予定しております。これまでにない盛りだくさんの内容となっております。是非、多くの皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

プログラム

- 13:30 開会の辞：趣旨説明 佐藤 育子（日本女子大学）
- 第1部 研究発表**
- 13:35 「カルタゴの支配像とローマの西方拡大—第二次ポエニ戦争の叙述におけるイベリアの人質—」
横山 資成（大阪大学4年） コメント 志内 一興（流通経済大学）
- 14:00 「「ホメロスの」葬制の再検討—パレパフォス・スカレスとティルス・アル=バスの比較—」
成川 桃子（名古屋大学院） コメント 辻村 純代（古代学協会）
- 14:25 質疑・応答
- 第2部 2025年度チュニジア古代遺跡調査報告**
- 14:30 「現地調査から考える古代ローマ時代の北アフリカ農業」 大清水 裕（東洋大学）
質疑・応答
- 15:10—15:20 休憩（10分）
- 第3部 講演会**
- 15:20 「西アジアの長い古代末期：ニネヴェからバグダードまで」 三津間 康幸（関西学院大学）
コメント 丸小野 壮太（常磐大学高等学校）
- 16:10 ラウンド・テーブル
- 16:30 全体会終了
- 第4部 研究報告（対面のみ）**
- 16:35 「西部ユーラシアの日食記録と地球自転速度変化の復元」 早川 尚志（名古屋大学）
- 17:00 閉会

司会・サポート 日野貴裕・中村えりな

日時：2026年3月29日（日）13:30～17:00 終了予定
場所：対面・オンライン併用のハイブリッド開催
対面会場：日本女子大学目白キャンパス 百年館5階506教室

最寄り駅 JR目白駅 / 副都心線 雑司ヶ谷駅 / 有楽町線 護国寺駅

参加をご希望の方は、**3月28日（土）正午までに**
下記のフォームからお申込み下さい。

<https://forms.gle/jk9AW7Wp8Hbi468r8>



ポエニ時代の城壁
カルタヘナ（カルタゴ・ノウア）